

特別講演

主催 埼玉医科大学産婦人科 ・ 後援 埼玉医科大学卒後教育委員会

平成15年11月21日 於 埼玉医科大学第五講堂

20世紀における婦人科手術 Gynecologic Surgery in the 20th Century

Robert F. Porges, M.D., FACOG
(New York University School of Medicine)

20世紀における産婦人科手術の歩みを顧み、今世紀を展望したい。私が10歳の時、私の家族はオーストリアから米国に渡った。父も婦人科医で渡米前は歴史的に有名なHalban教授、Schneider教授らと働いていた。

Joseph Halban (1870~1937) は1905年卵巣と乳房との関連性を示し、1907年には解剖学者Julius Tandler教授との共同研究で女性の性器脱の解剖学的研究として有名なHalban-Tandlerの説*を発表している。

[*子宮脱の主因は肛門挙筋板間の生殖裂孔の哆開であり、修復手術のポイントは肛門挙筋脚の縫合によりこの哆開を修復することであるとする説。これに対してMartinの説は子宮脱の主因を基靱帯の弛緩延長にありとし、修復のポイントは基靱帯の短縮、固定であるとするもの。]

Halbanは腔式子宮全摘術を報告しているが(1932)、それはDeschampsを用いる手技であった。結紮は腔の方から上行性に行ったが傍子宮結合織は結紮していない。腹膜縫合を行い、腔は開放している。

Ernest Wertheim (1864~1920) はウイーンの婦人科医でFreundの腹式子宮摘出術を拡大し骨盤リンパ節摘除術を加えた。彼の手法は側方と後方の傍子宮結合織を広く摘除する手法でWertheimの広汎子宮全摘術(現今われわれが行う準広汎性子宮全摘術に相当する)として知られている。19世紀には傍子宮結合織を挟鉗だけして結紮は行わない手法が行われていたが、Wertheimは傍子宮結合織を結紮している(1908)。

Joe V. Meigs (1892~1963), Massachusetts General Hospital (Boston), はMeigs症候群で知られているが、米国でいち早く子宮頸癌の手術を記載した(1954)。

Howard Atwood Kelly (1858~1943), Johns Hopkins Hospital (Baltimore), も結紮法で腔式子宮全摘術を行っている(1927)。

Albert S. G. Döderlein (1860~1941)はドイツの産科医であるが、腔式子宮全摘術でまず最初に前方の膀胱

子宮窩腹膜を開放し、そこから子宮体部を腔に持ってきて、子宮底から結紮を開始し、子宮頸部に向かって下方向に結紮・切断した(1905)。

Friedrich Schauta (1849~1919)はオーストリアの婦人科医で腔式広汎子宮全摘術を確立した。Schuchardt法により会陰部を大きく切開すること、腔断端部を先ず縫合腔閉鎖術して子宮頸癌の病巣を包み込んでおいて摘出手術にとりかかることなど独特の手法を考案した。現在、Schauta手術(腔式広汎子宮全摘術)は早期癌、微小浸潤癌、極端に肥満した患者に腹腔鏡下リンパ節郭清術を併用して用いられる。

米国の婦人科医Noble Sproat Heany (1880~1955)は腔式子宮全摘術を系統だてて行った(1930)。傍腔・子宮結合織を独特の湾曲した靱帯鉗子を用いて下方から上方に向けて挟鉗・切断・結紮し、腹膜は巾着縫合した。

因みに私の腔式子宮全摘術はObstetrics and Gynecology 1970;35:300-313にView and reviews vaginal hysterectomy at Bullevue Hospital. An experience in teaching residents. Robert F. Porgesとして詳述してある。

腹腔鏡下子宮全摘術が発展しても、腔上部切断術が復活しても、卵巣摘除の必要性が増しても、腔式子宮全摘術は21世紀にも生き残るであろう。その最も良い適応が子宮脱手術である。

内視鏡手術としてはDeckerが始めてculdoscopyを用いた。腹腔鏡について最初の英語の論文を発表したのは英国のP. C. Steptoeで(1967)、北米ではCohenの論文(1968)が最初である。

手術の理想は、できるだけ良く見えること、できるだけ小さく開けること、できるだけ安全な手術であること、できるだけ手術症例を減らすこと、である。

そのための工夫として、スクリーニングプログラム、抗生物質、子宮外妊娠に対する内科的治療、卵管結紮

術の代わりにIUD使用, 出血する子宮筋腫に動脈塞栓術, 子宮内膜焼却術endometrial ablationなどがある.

20世紀における女性の収穫には, 選挙権の獲得(1920), 母体死亡率の減少, パパニコロースミア, 経口避妊薬, 人工中絶の権利, ホルモン補充療法が挙げられる.

医師の性別分布(2002年6月1日現在)は, 男性27,329 (61.1%), 女性17,247 (38.9%)であるが, 研修医

では, 男性3,155 (32.8%), 女性6,477 (67.2%)であり, 近年, 女性医師数が男性医師数を大幅に上回っている.

新しい婦人科領域として泌尿器婦人科学 urogynecology ないし女性骨盤底医学・再建外科学 female pelvic floor medicine and reconstructive surgeryがある. この分野が上記の背景を踏まえて今世紀おおいに発展することが期待されている.

(文責 永田一郎)